

第七十二回実朝忌俳句大会特選句

一般投句の部

令和二年三月吉日

選者	作品	住所	氏名
星野椿	実朝忌芽起しの雨音もなく	横浜市	鈴木 基之
々	鎌倉の波の重たき余寒かな	東京都	大久保 昇
々	湘南の風にひらひら若布干す	鎌倉市	岩崎 利恵子
松尾隆信	海底の三月十一日の泡	東京都	曾根 新五郎
々	実朝の海をはるかに冬すみれ	横浜市	藤川 和男
々	鳩の群割つて走る子実朝忌	二宮町	佐藤 美保
宮坂静生	数の子を噛めば切字の響きあり	千葉県	菅谷 貞夫
々	右府の忌や鳶の高舞ふ相模灘	茅ヶ崎市	深瀬 和子
々	芽起しの風は山から実朝忌	東京都	中川 敏
山川幸子	波音は永久の語りべ実朝忌	寒川町	金指 月光
々	無言また豊かなことば実朝忌	群馬県	小倉ていいち
々	実朝の海実朝の冬怒濤	東京都	曾根 新五郎